



発行所 津市新町3丁目1-1 津高等学校 同窓会事務局 TEL・FAX 059-229-7331 共立印刷株式会社

創立百二十周年記念行事決まる... 3 恩師短信... 3 きびしい津中時代... 3 生きる力を育まれたなつかしい母校時代... 4 柳山の「県立」一〇〇年... 4 三重桜の想い出... 5

花はたけく 萌え出でし



新年明けましてお目出度うございます。恒例の総会も担当学年

(四十一年、五十三年卒)の方々の精神的な、尽力により盛會裡に和氣藹々と行なわれ、心より担当学年の方々と参加各位にお礼申し上げます。

同窓会長 岡村 初博 (昭和15年卒)

び、ご功績をたたえましますとともにつつしんでご賞福をお祈り申し上げます。さて、本年は津中百二十年、津高女百年、津高五十年の記念すべき周年を迎えます。周年事業は企画委員会(鳥羽 登喜委員長)が



タイトル・書 千草光洞 (昭和23年卒) レリーフ・不動 濱田 稔 (昭和41年卒)

120周年記念行事一覧

- 平成11年 同窓会名簿発行
平成12年 CD製作
平成11年 4月23日(日) 三重桜部会百周年総会
平成11年 5月16日(火) 第3回ゴルフコンペ
平成12年 8月9日(水)~13日(日) 第4回美術展
平成12年 10月15日(日) 経ヶ峰登山
平成12年 10月28日(土) 記念式典・記念講演

明けておめでとうといいたい。皆さんの健康におかれましてはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。本年は西暦二千年という節目の年であり、本校は創立百二十周年を迎え、秋に記念式典を予定しております。同窓会におかれましてはいろいろなおイベントを計画していただいております。

さて、本校の様子ですが、学校群が廃止され単独校となり、五年が経過しました。二期制も定着し、落ち着いた雰囲気の中で、生徒たちは生き生きと学校生活を送っております。多方面にわたる生徒たちの活躍は目を見張るものがあり、昨年度のインターハイでは男子道が七位、陸上・三段跳が八位と上位入賞したのをはじめ音楽部が中部合唱コンクール、理工学研究

会が全日本学生科学賞に出場するなど大活躍でした。このような活躍が見られる一方で、いわゆる「勉強だけ」という生徒もなくなり、そうした生徒に人生の目的意識をもたせる指導が大きな課題となっております。そこで、いろいろ議論した結果、ガイダンス機能の充実を図ることとし、企業や大学を訪問し体験学習をさせたり、外部講師による講演やロングホームルーム等で「生き方」を考えさせたりする取り組みを始めました。今年、百五銀行本店、名古屋の金総合法律事務所、名古屋大学菅島臨海実験場、三津大学医学部で体験学習を実施しました。百五銀行では川喜田貞久頭取(津高、昭和二十七年卒)、金山総合法律事務所では、渥美雅

最後に、同窓会員の皆様方の今後の活躍をお祈りするとともに、本校への更なる支援をお願いして、挨拶とさせていただきます。

ゆり(夫人)の手紙
その後、仕事に追われて忘れていたが、「津高百年史」(昭和55年刊)の「龍太郎」アルバムを見て、確かゆり子夫人が健在であるはず



学校長 松村 勝順

ご挨拶



弘田龍太郎

「龍太郎」邸との出会い
私が雑誌記者として駆け出しの昭和三十八年頃のことである。

藤村 知弘 (昭和32年卒)
と同窓会編集部に出して、「百年記念祭の記録」(昭和56年刊)にゆり子夫人の近況のお手紙と写真が寄せられた。

作曲家 弘田龍太郎が 津に甦る
北原白秋など生誕百周年記念が全国的に話題になるにつけ「龍太郎」の生誕百周年祭はわずか、生誕地の高知県安芸市で行われただけで、津では何もなされなかった。

創立120周年 記念行事決まる!!

実行委員長 鳥羽 登 (昭和29年卒)

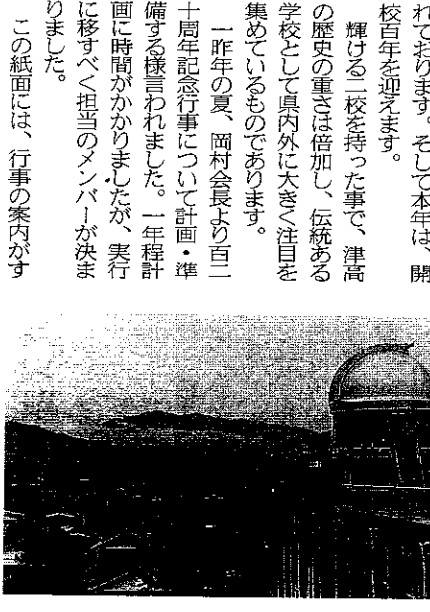


へて掲載されています。 今回の目玉として経ヶ峰登山が計画されました。津中以来の伝統行事であると聞いております。記念行事として最も心奪われるものと思えます。

本校は、「三重県立津中学校」として明治十三年一月、安濃郡津丸之内の津藩校・有造館を下賜され、校地・校舎として、二十五日に開校。この日をもって創立記念日とする。とあります。以来、明治・大正・昭和と激動の近代日本の中で、時代に必要とされる教育を全県に及ぼす人材育成へと邁進せしめ、いつて全国に津中の名譽轟き、各界における先輩の活躍も数多く、今日に至っております。

又、三重県立(津)高等女学校は、明治三十四年四月二十五日開校。時代の才媛として華やかに、時にはついでに、礼儀正しく、職場においても立派な業績を残されております。そして本年は、開校百年を迎えます。

輝ける二校を持った事で、津高の歴史の重さは倍加し、伝統ある学校として県内外に大きく注目を集めているものであります。一昨年の夏、岡村会長より百二十周年記念行事について計画・準備する様言われました。一年程計画に時間がかかりましたが、実行に移すべく担当のメンバーが決まりました。



この紙面には、行事の案内が...

十月十五日(日) 皆んなで経ヶ峰に登ろう

津高卒業生の心のふるさと、経ヶ峰に登ろう!いつしか、誰からともなく言葉になって、いよいよ津高創立百二十周年に表現されることになった。大先輩の言葉によく出る経ヶ峰登山、もう一度その時を思い出し、男性も女性も一緒に青春しようではないか。街が変わり、道が変わり、小川が変わりつつある現在、変わらないのは、我が青春の心のふるさと、経ヶ峰

だけになってしまった。平成十二年十月十五日を想定しよう。透き通るような秋情れのもと、草生小学校に集合する。みんな思い思いのグループで、いざ出発。約二時間の登山に汗する。頂上でお弁当は昔と変わらぬあめ味の味に違いない。こんなにおいしいお弁当は何十年振りだろうか。空からは我が「津高百二十周年経ヶ峰登山」のためにヘリコプター

第四回美術展開催

八月九日(水)〜十三日(日) 三重県総合文化センター

美術展も回を重ね百二十周年には第四回美術展が開催されることになりました。同窓生の一人として大変嬉しく心よりお喜び申し上げます。

前回は百二十周年記念美術展も前回は劣らず県内外から同窓生多数の皆様にご参加、ご協力をお願いする次第です。

一、日程 平成十二年八月八日(火) 搬入会場飾り付け 展示 平成十二年八月九日(水)〜八月十三日(日)

山口出発ゲート 三、参加料 一人千円 四、参加申込み 官製ハガキで一人一枚ずつ 五、参加申込み後詳細を連絡、参加料もその時 六、締切り 第一次締切り 平成十二年三月三十一日 経ヶ峰登山 申込書

津高同窓会事務局 同窓会事務局 経ヶ峰登山係行

経ヶ峰登山申込み書 table with fields for name, address, phone, and registration details.

文責 竹林武一 (昭和37年卒)

CD製作

陳川・三重桜・津高の各時代の校歌・応援歌・出陣歌・凱歌・寮歌・野球部の歌・ホト部の歌等をCDに収録して保存する計画が持ち上がりました。音楽部卒業生には「ピアノ伴奏で合唱を、吹奏楽部卒業生には演奏(カラオケにもなります)を収録していただきます。

第二回

記念演奏会

四月二日(日) 十三時 三重県総合文化センター 大ホール

百二十周年記念演奏会に引き続き開催することになりました。今回は吹奏楽部と音楽部が共演し、第一部は「思い出の校歌特集」。第二部は、最初に「音楽部」次ぎに「吹奏楽部」最後に「合同」で構成し、皆様に楽しんでいただける曲を選んで三時間余の演奏会となります。両クラブとも現役高校生と卒業生との合同演奏です。三月の合同練習会を経て四月一日(日) 文責 鈴木征一郎(昭和36年卒)

記念旅行の開催

母校創立百二十周年の記念旅行を同窓会後援のもとに、JTBと近畿日本ツーリストの二社がそれぞれ企画いたしました。久し振りの再会を兼ね、旧交を温めてみたいと思えます。ご夫婦・ご友人で是非、参加ください。旅行日程は左記の通りです。一、大自然アフリカ紀行8日間の旅(JTB) お申込みください。

学校での行事

記念式典及び記念講演を次のように開催いたします。日時 平成十二年十月二十八日(土) 場所 三重県総合文化センター 大ホール (講演講師等詳細については今後検討) 尚、記念式典、記念講演にPTA、同窓会の皆様にもご参加いただき、盛大に開催したいと考えています。多数の皆様参加をよろしくお願いいたします。 文責 鈴木征一郎(昭和36年卒)

第三回 ゴルフコン。へ開催

五月十六日(火) 富士カントリー

創立百二十周年の記念事業の一つとして、第三回津高同窓会ゴルフコンペを開催いたします。

第一回、第二回のゴルフコンペには、多数の方々に参加をして頂き盛大に開催することが出来ました。今回も同窓生の親睦を図り、併せて参加者の健康増進を図ることを目的と致します。

多数の会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

日程 平成十二年五月十八日(火) 場所 富士カントリー

文責 鈴木征一郎(昭和36年卒)

百二十周年記念募金のお願い

学校設備の充実と百二十周年記念事業並びに同窓会活動基金充実のため「創立百二十周年記念募金」を開始いたします。 会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

恩師短信

教え子こそは我が宝と壮語

野田 彦四郎 (昭和8年卒)

一、連綿三十七回の同窓会に招待されて
 教え子は我が宝なりと愛でし子ら
 早や古稀むかひいと嬉しむ
 母校一中の教諭として昭和十八
 年の春、弱冠を僅かに超えた若輩
 が大きな抱負に胸たぎらせて就任
 した時、十七年に入学者の生徒に
 対し、歴史担当、教え子は眞面目
 にして、しかも活気横溢、来る日
 も来る日も和気霽々、和衷協同の
 一、連綿三十七回の同窓会に招待
 されて
 教え子は我が宝なりと愛でし子ら
 早や古稀むかひいと嬉しむ
 母校一中の教諭として昭和十八
 年の春、弱冠を僅かに超えた若輩
 が大きな抱負に胸たぎらせて就任
 した時、十七年に入学者の生徒に
 対し、歴史担当、教え子は眞面目
 にして、しかも活気横溢、来る日
 も来る日も和気霽々、和衷協同の

電子音恐怖症

山本 鹿郎 (昭和6年卒)



二、卒業五十年間期的歴史的同窓
 右の学年より一年下の生徒にとっ
 ては、平成十年を以て卒業五十年
 の意義深き同窓会を開催した。こ
 の事は直前の会報に、幹事三宅克
 也氏より報告されたが、この会に
 鄭重にも招待された私より特に感
 慨深かったことを力をこめて記録
 する。この美事は、十月二十八日
 豪壮十三階の鳥羽シーサイドホテ
 ルに会する者八十二名、更に、米
 本、在田両先生と私が招かれ、旧
 懐の情に満ち満ちいとも盛大豪華
 招待を忝なくするといふ恩恵に浴
 して、唯々感謝感激している。

きびしい津中時代

前川 清 (昭和16年卒)



「二」では、敢えて狭義に。
 自然界、或は人間に拠る文化文
 明産物(例えば音楽、機械音
 「楽・騒音」等を外れる「得体の
 知れぬ音」と、縦へ、得体の知
 れぬ音楽、機械音なりとも「主
 題ナレーション」と競合妨害する
 が如き類いの諸音」等を、「電子
 音」と定義したい。

最近思うこと

赤田 登喜子

去る九月十二日、津高文化祭に
 お伺いしてクラブのお茶会におよ
 ばれ致しました。実に二十何年ぶ
 りのことでしたが、昔の津高その
 ままの雰囲気、大変なつかしく
 思いました。

「津高の卒業生の 暖かさに接して」

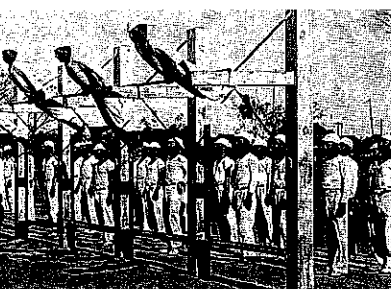
林 茂典

退職してからは二十二年あまり
 が経ちました。その間、一体何を
 して過ごしてきたのだろうかと思
 った。よく気が付かぬまま、京都へ
 出掛け、お参りしたり、家元の
 お稽古に通ったり、好きなことを
 しているうちにいつのまにか年月
 がたつてしまったといふことです。
 最近、身体の方が少々不自由にな
 りましたので、独りでは殆ど外出
 抗して戴かない限り、私達には職
 取困難と成る訳。

明い出来事は少なく肩をひそめ
 るような暗いお話がほとんどです。
 まったく凄惨混濁の世はこの「
 とかと思つてはかりです。特に子供
 達の将来が心配です。心配と言っ
 ているだけで、今となっては何の
 お役に立てないのはまぎらな
 がいないことです。自分の心で
 限れば、このまま何となく
 平穏な静かな余生を送れたら何よ
 りありがたいことだと思つて居
 ます。

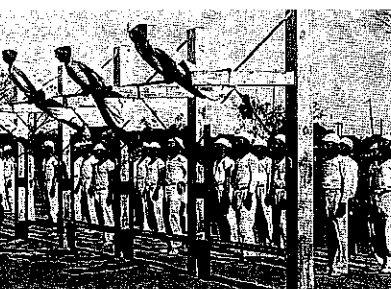
昭和十一年三月二十三日。小奮
 舞つて日でした。明治の創設以
 来三重一中として親しまれてきた
 津の古河校舎より新町の新校舎が
 完成して初めての入学試験が実施
 されました。全県下の小学校より
 受験参加が出来た時代でした。私
 の記憶では合格予定人員は二百名
 だったと思います。私は養正小学
 校六年生より受験し、午前中、国
 語・算術・地理・歴史の筆記試験
 午後は面接試験がありました。先

津中学在学中、毎年一学期の期
 末試験が終ると、夏休みに入る直
 前まで津の磯崎海岸で全校生徒の
 水泳教室が開かれました。午前の
 授業が終わると学校で昼食(弁当
 を食べ、自由に磯崎海岸まで行き
 定められた時間から始まるわけ
 です。そのよつな時、毎日ではあり
 ませんが気の合った友達など清観
 堂の店から入って家の中を通りぬ
 け、仕事場の横を過ぎて裏口から
 近道を通って大門町へ抜け海岸へ
 通つたものでした。たまには夏の
 涼菓子のくずまんじゅう、水羊羹
 などを口にしたこともあります。
 厳しい教育事情の当時でもこんな
 事があったと思ひ出され懐かし
 思います。背丈は小柄であり体力
 もあまりない私ですが、小さい時
 から何故か水泳には親しみがあり、
 中学一年生の時二十五回の遠泳合
 格、四年の時観海流五里の免許を
 取得することが出来ました。藤原
 淳一先生には大変お世話になりま
 した。



昭和十一年三月二十三日。小奮
 舞つて日でした。明治の創設以
 来三重一中として親しまれてきた
 津の古河校舎より新町の新校舎が
 完成して初めての入学試験が実施
 されました。全県下の小学校より
 受験参加が出来た時代でした。私
 の記憶では合格予定人員は二百名
 だったと思います。私は養正小学
 校六年生より受験し、午前中、国
 語・算術・地理・歴史の筆記試験
 午後は面接試験がありました。先

津中学で過ごした五年間、当時
 は戦況も勝ち戦の時であり、軍國
 一致体制とか戦争に対する悲壯観
 とかはあまりありませんでした。
 しかし正規の学課の外に軍事色も
 加わり梅干弁当で経ヶ峰登山、河
 芸から安濃にかけて転開する一昼
 夜にわたる戦闘訓練、歩兵第三十



生きる力を育まれたなつかしい母校時代

佐々木 かよ (大正15年卒)



本年度の三重校部会総会は平成十一年四月二十九日に津都市ホテルで開催されました。松村校長先生、富田同窓会副会長、事務局の鈴木、赤塚先生の臨席をいただき、県内外から二百余名の会員の出席のもと、和やかに盛会裡に終わりました。

私が入学したのは大正十一年四月、厳しい入試を経験しての入学は喜び一人でした。着物は袴、三重校の校章をつけ久居駅から当時の軽便鉄道で通いました。

一年から三年間清水誠吾校長先生が月曜の朝礼で「唯一の県立高女に学ぶことを自覚し、實業副健、品位を高める」といったお話をよくされました。吾気だつた私はいつも姿勢を正して聞いたものです。

四年になると佐々木三郎先生に替り朝礼だけでなく毎週の修身の時間にも御指導下さいました。やや瘦身に静かなお話しぶり、「よく考えて行動、一人を慎む、困難を避けず伸ぶる機会に、国中から世界にも目を向けて」等諭されたことは後にいろいろな面で大きな励みになりました。

「よく考えて行動、一人を慎む、困難を避けず伸ぶる機会に、国中から世界にも目を向けて」等諭されたことは後にいろいろな面で大きな励みになりました。

学級担任は四年間、母校卒業後奈良女高師で学ばれた竹島と先生、小柄で明るく国語科を担当されいつも楽しい授業をして下さいました。又毎日毛筆で書いた修養日誌による「花言葉や天知る地知る我身知る、素直な表現」等を朱書きでほめたり戒めることを書いて頂きました。作文の時間「将来の希望」という題で私は「書斎先生に、二番は花屋に」と書きました。少して先生に呼ばれ「子供を教育する先生も、花を育てる人も身体が弱くは駄目、偏食を改め、夜更かしせず、良い空気を吸って運動しなさい」と懇々と諭され、我がままだった自分を反省し生活を改めるように努力しました。

私達の学年名は梅組で主任は歴史の大塚俊夫先生でした。大きな手を振っての力強い講義は面白く、楽しいものでした。又学年名について「梅は寒さに耐え春一番に香りを咲き、後には梅干しとなって人々に親しまれる。良い組に当たった」と話されましたが、私は梅の咲く二月生まれです。小さい時から家の梅の美しさを手伝う度に母も同じ様なことを言ってくれたので、梅組に当たったことが一層うれしく思われました。当時は週一時間、作法、茶道、華道の時間があり、挨拶や動作のマナー、和、敬について学びました。又学校畑の茶を摘み蒸して揉む作業や、浴衣の早織り競争、その技で関東大震災の時には浴衣を仕立てて送ったり、一年生初の制服は四年生に縫ってもらった。めくもりのある体験もしました。又春には護国神社へ参拝、午後津公園の自由散策、夏は唐干、秋祭には唐人踊りの見学等楽しい思い出が沢山あります。しかし鍛練的な面も多く、朝礼の校長訓辞の後「皇室、国家、家庭親戚の安泰と繁栄、自己の練習」といった内容の「一心の掟」を高らかに唱え、

次に自衛術という体操をしました。また月一回は往復二十軒近く歩く月並遠足、年一回は奈良洲津送金員参加の学級対抗リレーもあり、遠足や旅行等、思い出す度に今も心を熱くします。

こつとした生活で、私は心身共に丈夫になり、卒業後の両親や夫の早逝、息子の大病という不幸、又長い教職中の諸問題も前向きに乗り越えることができました。さらに国内外の大自然や歴史文化にも学ばずとも得た独居ながらも楽しい日々を過ごして「卒寿迎え今幸せに梅の花」といった心境です。天災、戦争、終戦、民主化、人権尊重と激動の二十世紀の大半を生きてこれた自分を誇り、その基は母校時代に育まれたものと心新たに感謝の念を深めておきます。(三重校部会長)

三重校百周年記念同窓会

濱口 登代子 (昭和18年卒)



平成十二年四月に、三重県立津高等女学校創立百周年を迎えます。毎年四月に津高同窓会三重校部会として、楽しく集まっておりますが、今年は四月二十三日(日曜日)に津市センターパレスで創立百周年記念同窓会が行われます。都ホテルの臨席の広いセンターパレスで、時間も、午前十時から午後三時まで、ゆっくりにしたいだけです。

佐々木会長、伊藤副会長、常任幹事十一名で記念パンフレット作りなど、準備を進めております。尚、昨年九月二十二日に、年度幹事三十八名の方にお集りいただき、百周年記念同窓会をもって、三重校同窓会総会を終りとして、平成十三年からは、津高同窓会にご出席下さるよう、佐々木会長からお話をし、御賛同をいただきます。百周年記念同窓会には、三重校同窓会最後となりますので、皆様の出席を、お願い申し上げます。

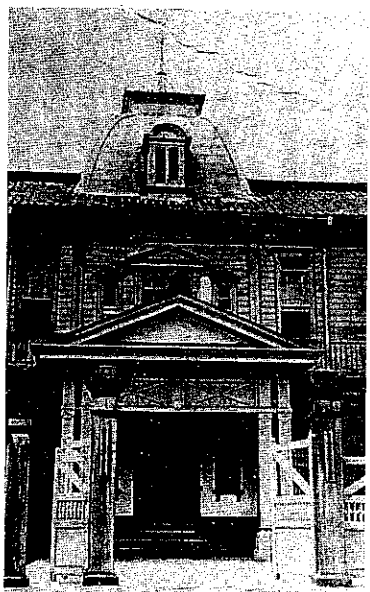
柳山の「県立」一〇〇年

伊藤 ミヤコ (昭和15年卒)



津高の同窓会の皆様から「三重校」と呼んでいただいています。三重校の由来は徽章が三重の桜花であり、又女学校の同窓会誌が「三重さくら」という題字で古くから出されていたことでもあります。また津の街の方々は「柳山」とか「県立」とも呼ばれてきました。創立以来、校舎がずっと柳山に所在し、長年唯一の県立女学校として親しまれており、津市立女学校と区別する為でもあったのでしよう。大正の中頃、各地に県立の女学校が創立されて「津高女」となっても世間では「県立」という名で人々に親しまれてきました。その津高女が平成十二年に創立一〇〇年を迎えることになりました。津高同窓会二〇〇周年でもおかけ下さい。会員案内葉書は全会

り、その一環として三重校部会では四月二十三日にご案内のようになり、創立一〇〇周年の記念大会をセンターパレス五階で開催することに致します。三重校部会としての総会は創立記念日(四月二十五日)に近い日曜日を選んで、毎年部会総会を各地で開催してきましたが、一〇〇年記念大会を以て三重校部会の総会を開くこととし、先日各学年の学年幹事の方々に「承を得ました。今後、総会は催されなくても三重校部会に存在いたしますので、子校会、久居の支部、各学年会等でのご活躍を期待しております。尚、津高同窓会での常任幹事や学年幹事の代議員は変わらなく続けたいと思っていますから三重校はつづぐこととなります。又、記念総会には健在の恩師にご案内状をお出しし、できるだけ多くの先生方を招待したいと思っています。会員の皆様も先生方にお会いできるのを楽しみにしておかけ下さい。会員案内葉書は全会



一冊のアルバムから

林 美津子 (昭和16年卒)



よつこびに胸おどらせて、三重校の校門をへんつたのは昭和十一年四月のこと。私達は竹組でした。そのころはまだ戦中中とはいえず、神國日本の必勝を信じていたがわなかつた私達でしたから、毎日の学校は大変楽しいものでした。昭和十六年三月、五年間の学校に別れを告げ、それぞれの道を歩きました。

間もなく大東亜戦争勃発、日本中が戦火にまきこまれ、二十年八月十五日ついに敗戦、戦争に終止符をうちました。焼け野原の中に立って、私は一冊のアルバムを手にしました。大事に大事にのこした三重校卒業記念のアルバム。すわりこんで何もかもわすれて、一枚一枚見つめていきました。三重校の校章もくっきりと立派な校旗、そして次は学舎。「張りだ、気品だ、県立だ」と励まし教えて下さった高畑校長先生、たくさんのお恩恵、そして四十六人の同級生、だんだん涙でぼやけてきて、じきじきといろいろな事を思い出してしまいました。朝寝坊してかけ足で赤橋をわたり柳山通りを駆けぬげ、やとついた学校もすでに朝礼がはじまっております。下駄箱のすみにかけられた、授業中いねむりをして竹島先生に睨まれたり、運動会のダンスの練習に足がそわそわ、水野先生のキーン声に必死に練習したり、数学の時間は早くすぎればならず、小さくなっていったら……修学旅行のこと、運動会のこと、それから、やや食糧事情も苦しくなったり農家へ勤勞奉仕にいった時、出された白い御飯と冷奴のおいしかった事、じきじきとなつかしい思い出ばかり。

私達は十分に学校生活を楽しみ卒業させていただきましたが、後輩の方々も心ならずも卒業を遂げて下さるお国のためにこの名のもとに軍需工場へかり出されるなど大変な苦勞だったと思います。思い出すと楽しい学校生活がおくれた私達は、本当に幸せな年代だったこと今更ながら感激しています。

創立百周年という輝かしい歴史を持つ三重校の卒業生である私達、誇りをもってこれからの人生を元気で生きていきたいと思っております。

三重県立津高等女学校 創立百周年 記念大会のご案内

とき / 平成十二年四月二十三日(日) 十一時より
ところ / 津市センターパレスホール
会費 / 六千円
備考 / 日程等詳細については後日年度幹事より連絡します。お誘い合わせの上多数ご出席下さい。

三重桜の想い出

長合一子(昭和21年入)



昭和二十一年四月、第49回創立津高女入学の私達は、そのまま卒業年度のない旧制最後の学年で...

「桃園」

前川剛(昭和27年卒)



遺層のあふくみ、ある年の暮に「桃園でも一度逢えたらいいね剛」と旧作の拙句を認めて...

時も放したくない白桃に胸を衝かれる。女は、竜宮城の乙姫様も鯛やひらめも妖精で、桃園の青桃...

としお思い入れの深いわけは、いつにジャジさんの人徳によること...

園科大学を出て母方の実家の家業を継ぎ、伊勢市に在住すること...

私が、津高校に入学したときはまだ戦後間もない物ない時代で...

今のように、自分の欲しい物は何でも手に入り、気に入らなかつたら捨てたりそのまま放つておくと...

大人の世界においても、働く女性にだけ制服を着せる習慣がまだまだ根強く残っているように思いますが、この事も女性が対等の職業人としてなかなか評価されない...

最近の若い人のなかには、自分の考えがきちんと言えない人が多いといったことを耳にします。また、思いおりにならない人のせいにする場合が多いとも言われています。

みんなみんな昨日と同じ

鯉江 盈(昭和25年卒)



原稿の依頼を受けたのは明日は津市の秋祭という頃だった。

五十年...夢まぼろしと謡い舞うが、現在は人生八十年時代だ。

頭張るね」或いは「性分だよ、一銭にもならんこと、よくやるよ」

たなかで、市民活動の一つとして一九八四年から始まったものです。

いい意味の自由な校風が今も私の中に脈々と

土川 禮子(昭和30年卒)



私が、津高校に入学したときはまだ戦後間もない物ない時代で...

このまわって通学しました。このことは、何でもかまわずに思われま...

二十一年の十一月十日と十一日に津市で「日本女性会議2000津」が開催されます。

最後に、母校のますますの発展とすばらしい伝統を二十一世紀にもずっと受け継がれていくことを心から希望し、みなさまのご多幸をお祈りして筆を置きます。

こんな拙文がある。桃園は陸の龍宮城、或は別荘をなすエロスの館地、歳にかかわらぬ青春の駅であり、恋人たちの辿りつく袋小路でもある。

平成五年九月二十三日、旧制津中学最終入学者のクラス会があった。入学した当時、名刺津中は空爆で校舎を焼失して門だけしかない。

私の旧姓は中里剛。大阪府岸和田市生まれ。昭和二十年早春、連夜の空襲で過労死した父の出生地津に転宅。

秋の雲アルパムの人動きだす／剛

私は、母の学生時代の制服をそ

津高等学校

津市で「日本女性会議2000津」

最後に、母校のますますの発展

ミステリー・ロマン小説

「グランド・ミステリー」



稲垣

掲載しました「グランド・ミステリー」は、芥川賞受賞者の奥泉光さんの作品で、一昨年の三月に初版が出版されました。

一、六〇〇枚書き下ろしの、「大ミステリー・ロマン」として「犯人は誰か」というミステリーを追い越して、歴史とはいったい何か、人の存在とは何か、という大設問が立ち上がり、あらゆる根拠が砂粒のように崩れる「清水良典」と評されている傑作小説です。

小説の舞台となっている時代背景が、昭和十六年の真珠湾攻撃から終戦の直後までで、特にわたし(小学生でしたが)のように、

この時代を生きてきた者にとっては実態として生々しく迫ってくるものがあります。まだお読みでない方には、是非ともお薦めいたします。

副会長就任にあたって

松井典子(昭和34年卒)



昨年三月末日をもって三十六年間の教員生活にピリオドを打ちました。最後の十三年間を母校である津高に勤務させていただき、後輩である生徒達と喜びや悩みを共にしつつ充実した毎日を送ることができたこと、この上ない喜びに感じています。また、退職前の七年間は図らずも同窓会事務局の担当を任せていただきました。最初は戸惑いでしたが、会長のまねをまねて

の読後雑感

毅(昭和29年卒)

この時代を生きてきた者にとっては実態として生々しく迫ってくるものがあります。まだお読みでない方には、是非ともお薦めいたします。

「胸を刺す」その勇気は、第一次攻撃隊が去り、まもなく水平線に黄色に染める太陽が昇って海がしだいに色を加えてからも続いて、顔振は自分が夢の物語のなかにいるかを感じ、眼に映る事物のいづれかが、不思議に鮮明な輪郭をとらえていて、ひとひとつとつと場面、煙突から黒煙をあげ艦隊を走らせ疾走する駆逐艦、フーに切り裂かれる白波、艦橋にひるがえる戦闘旗、砲弾を載せた台車を押す水兵たちの力こもった防置服の背中、ラッタルを駆け下りてくる短靴と裸の腕、昇降機のなかで慎重しく折り畳んだ爆撃機、その巨艦にとりついたたぐさの白いエンカン服、眩しい光のなかに浮かんで凶々しい黒煙をなす機影、発射の猛烈な反動を受け

頭が真つ白になってしまいました。私のようなものが、大変伝統ある津高同窓会の副会長という大役を務められるとは到底思えず、一旦はお断わりいたしました。しかし、つよにお薦めもあり、同窓会中学校のバイブ役になれればと微力ではありますがお引受けすることにいたしました。どこまでお役にたてるかわかりませんが、みなさんの足手纏いにならないように努力したいと思っております。

多くの方々から教えられたり、助けていただきながら、なんとか無事役目を果たすことができた、胸を撫で下ろしております。在任中に出席させていただいた三重県の総会や各支部の総会では、みなさまから大変ありがたいおもてなしを受け、励ましていただきました。また、ここにお世話になりました。そして多くの方々の出会いの中で視野を広げ、様々なことを学び、充実した七年間を過ごさせていただきました。本誌にありがたいうちにお礼申し上げます。退任してはじめていた、津高同窓会副会長に、突然、津高同窓会副会長に、推薦を受け、晴天の霹靂で

卒業アルバムからの回想

鈴木正文(昭和36年卒)



九月の半ば、同窓会事務局から会報誌原稿の依頼を受けた。率直に困った。迷惑なことだとも思った。

原稿用紙に向かうことなどというぞないことへの戸惑いもある事ながら、繁忙を極める昨今では、まづ時間が無いのが最大の理由であった。早々に提議辞退の連絡をさせていた。ところが、その翌日のことであつた。会社の机に一通の伝言メモが置かれていた。メモには「当社お取引三基町六軒の岩崎直紀様より直叙のこと。高校時代の同級生云々」とあつた。その名前には、はつきりと記憶があつた。だが、三十八年の歳月は彼の

面影をかなり輝けにしていた。その時、無性に岩崎君の顔を確かめたい思いが走ったのである。高校時代の卒業アルバムなど開く機会はずなかつた。しかし、そのページを追うと三十八年の記憶は、古く微臭いアルバムとは裏腹に、実に新鮮に鮮明に蘇つたのである。

今、私は五十七。その五十七分の三は三基町時代と何はあつたかどつかわかりませんが、人生は思うようにいかないものと自分を慰め、その場限りにしてまいり三日坊主を繰り返すことになりま。どうしたらよいかと考えるならその原因を自分なりに究明して悪いところを改める必要が有ります。でも自分がどんなタイプの人間かを知らないと。そして自分を客観的に観るとは、大変難しいことでもあります。失敗はしないほうがいいに決まっていますが、事を成そうと思えばどうしたって失敗はついてきてしまいます。人生に無駄な経験など一つもないことを信じてこれからは何事でもやってみようというチャレンジ精神で行動したいと思つています。これからの人生「三日坊主」とは、どうも縁が切れそうにもありません。(津市議会議員)

雑感

岩本



私は現在津市の市議会議員を務めております。津市議会には、四名の津高出身議員が議席を占め、又市長も、岡村初博前市長、近藤康雄現市長と二代にわたって先輩が務めており、大変心強いものがあります。議会は行政のチェック機関でありますので、時によっては、対立するところもあり論争する

勝(昭和37年卒)

これもやむを得ません。しかし、先輩、後輩といつことでもうまい機能しているのではないかと感じます。それは三日坊主による失敗が多いといつことでもあります。坊主の修行は激しく三日もたないから転じて長く続かないことを反省すべきであります。ゴルフ、ダンス、パソコン、英会話、書道等思ったようにいかず途中で放り出しています。このことが人生を大きく左右するほど重要な意味を持っている

前同窓会長辻嘉一君を偲んで

速水正(昭和10年卒)



平成十一年十月九日前同窓会長辻嘉一君が逝去されました。昭和十一年津中卒業の同期の者は心から死を悲しんでおります。辻君は同窓会副会長として十七年、会長として六年と長きにわたって会をなさされた方でした。津高の発展

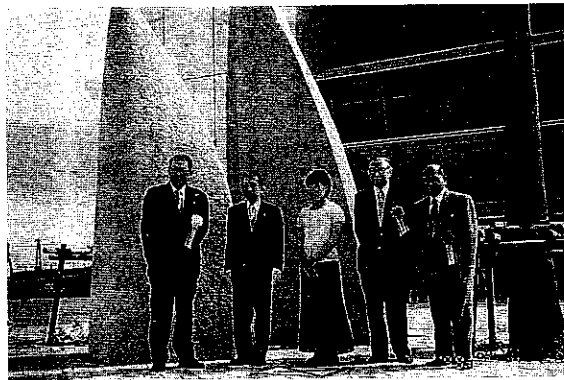
そんな中で今も忘れ得ぬ先生の言葉がある。先生は國語の授業の閑話休題として「人は比較対象を価値判断の基準として生きる動物。しかし人と人、人と自分を比較してその価値を決めることは余りにも愚かなことだ。」と語られた。この言葉の持つ重さを年令をかきわけるたびに思う。昨今の世相、昨今の教育の混乱の多くはこの言葉の喪失から生まれているように思えてならない。思いつゝま拙文を連ねた。今は会報誌原稿の依頼をいただいたことに感謝している。この機会がなければ多分、高校時代を振り返ることなどなかつたであろう。企業組織に身を置いて早くも三十四年の年月が流れた。とにかく走り続けられてきた日々。しかしゴールはもう遠くない。その日が訪れた時、改めてこの卒業アルバムを開いてみようと思つた。ただその時は私一人でページを這うのではなく、学友達と親しく酒を酌み交わしつつ、高校時代を回想したいものである。その日がくるまでもう少しだけ、企業人として残り少ない最後の情熱を、自分らしく傾けたいと考えている。(三交百貨店 社長)

四日市ポर्टビルにモニュメント!!

美術部顧問 月輪 清

美術部の活動状況についての原稿依頼を受けましたので、近年の様子や成果を報告します。

部員数は、年度によって差はありますが、十名から十五名程度です。主にデッサンや油絵を主とし、制作に親しむ仲間が集まり楽しくやっています。



美術部の活動状況についての原稿依頼を受けましたので、近年の様子や成果を報告します。部員数は、年度によって差はありますが、十名から十五名程度です。主にデッサンや油絵を主とし、制作に親しむ仲間が集まり楽しくやっています。

私の陸上生活

三年九組 中村 英二

私が津高校陸上競技部員として練習を開始したのは、合格発表の五日後くらいからだったでしょう。他高校からの誘いを断り、津高校を選択した理由は、他ならぬ「自主自律」という言葉に魅了されたからでした。その校風はいかなるものだろうかという期待に胸をおどらせた。そして入学式を待たずに、陸上部を訪れてしまいました。

私が津高校陸上競技部員として練習を開始したのは、合格発表の五日後くらいからだったでしょう。他高校からの誘いを断り、津高校を選択した理由は、他ならぬ「自主自律」という言葉に魅了されたからでした。その校風はいかなるものだろうかという期待に胸をおどらせた。そして入学式を待たずに、陸上部を訪れてしまいました。

「全国総体入賞」という目標を掲げ、それを達成するにはどうすれば良いかを考えました。そして、誰もができる基礎的なトレーニングを徹底すれば、確実に力は伸びると考え、実行しました。二年生のときは、他者とは異なる私のこ

「全国総体入賞」という目標を掲げ、それを達成するにはどうすれば良いかを考えました。そして、誰もができる基礎的なトレーニングを徹底すれば、確実に力は伸びると考え、実行しました。二年生のときは、他者とは異なる私のこ

ルへ出品。五万点の中から入賞。東京での表彰式に参列しました。このように美術部員の実績は全国レベルに負けず劣らずであります。さらに、昨年、四日市港開港百年記念事業として、四日市港ポर्टビルが建設完成されました。そのポर्टビル正面玄関のモニュメントデザイン公募が県下高校生対象にあり、津高が賞を独占する形となりました。次に、十月に開催される「第二十回三重県高校文化祭総合交歓会ポスター原画コンクール」に、野田朋香さんの作品が、最優秀賞に選ばれ今年度のポスターを飾りました。又、学校図書協議会主催の「読書感想画三重県コンクール」では毎年のように津高生の作品が入賞しています。二年前には河合紀子さん(現三年)の作品が全国コンク

三重県合唱コンクールで最高受賞

音楽部顧問 小林 正美 (昭和45年卒)

昨年「第39回三重県合唱コンクール」において、津高音楽部は、全ての部門を通じての総合第一位(理事長賞)の栄誉をいただきました。

この賞を高校の合唱部が受賞したのは、県合唱コンクールが始まって以来、初めてのことで、その日の部員たちは、三枚もの表彰状と大カップやメダルを手に、大騒ぎとなりました。音楽部OBの皆さんからお祝いの手紙やらEメールなどを沢山頂戴したことも、部員たちの喜びを倍増させました。

また十五名の一年生の入部があり、一昨年あたりから定着してきた三年生のコンクールまで部活動を続ける新しい伝統と合わせ、ようやく理想的な音楽部の形が整い始めたと言えそうです。

その後、長野市で開催された中部コンクールでも素晴らしい演奏をしたのですが、その壁は厚く、惜しくも銀賞に終わりました。しかし、一年生部員が半数を占めていた昨年から、ちょうど百二十周年に当たる本年こそは、津高音楽部創立以来の悲願である『全

「射撃を楽しみ礼を尊ぶ」

全国総体弓道大会(女子団体・女子個人)に参加して

弓道部顧問 出丸 久之 (昭和37年卒)

昨年の五月三十日は伝統ある津高弓道部女子に二十一年ぶりの優勝をもたらした記念すべき日だった。前日の総体予選一日目に二本差で四日市西に続く二位にわが女子団体がつけた。試合後の監督の一言は、「夕食をとり、風呂に入りよく眠りなさい。」だった。翌朝の第三回戦で、四日市西を抜いた皇学館に二本差をつけて一位となり、その後第六回戦まで一位を譲ることなく、最終六回戦は13/20的中し追いつくが四日市西をぶつちぎりの五本差をつけ栄々の優勝

進路室より

進路指導部長 石橋 佳代子

長びく不況と少子化という二つの現象が、大学の様相を大きく変えつつあります。

平成十二年度の国公立大の定員数は、文部省の発表によると九七、二九四人というところで、昨年より二、六〇四人の減少となります。これは来年度で四年連続の減少となり、本校のように国立志望者の多い学校では、油断ならない状況といえます。

一方大卒者の就職状況は、大学の選抜方法にも変化をもたらしました。「難しい入試を突破して来た学生は潜在能力を持つ」という旧来の学歴重視の考えは、「一学校での成績は社会へ出てからの能力と必ずしも一致しない」という企業側の論理で、採用のオープン化がなされました。この変化は、企業が学生に「専門性」や「即戦力」の資質を求めてきたということになります。そこで、大学も学部学科を細分化し、新しい学科の設置によって対応しようとしています。また一般入試とも推薦入試とも異

津高31会作品展開催

加藤 淑子 (昭和31年卒)

私たち昭和三十一年三月の卒業生の集まりである「津高31会同窓会」を、十月十日に津高ポर्टビルで開きました。隔年開催の同窓会を地元津以外地域と交互に行ってきた。今回は幹事役鎌田重志さんの発案で、会員による作品展を企画し、十月九・十一日の三日間「ギャラリー津」で開催しました。恩師草野正先生、佐野由子先生にも出品いただき、約三十名の絵画・書・写真・陶芸・刺繍などの力作五十点程を展示しました。

メインのパーティーは百余名の出席者が、恩師を囲んで、旧交を

(平成11年度大学合格者数)

	国立	公立	私立	短大
H11年度	220	41	740	64
H10年度	187	32	748	59
H9年度	175	29	871	70

(平成11年度 主要大学合格者数)

	北海	東北	筑波	お茶の水	東洋	金沢	信州	名古屋	名古屋	三立	京大	京大	神大	大阪	神戸	早稲	上野	青山	中央	日理	明治	法政	立教	愛知	愛知	中京	南山	名大	龍谷	京産	同産	近畿	関西	三短								
H11年度	6	1	8	2	0	1	7	10	22	7	5	78	3	10	8	5	7	2	14	17	4	10	12	13	14	17	15	5	13	25	11	30	31	26	16	18	24	40	92	57	12	
H10年度	6	5	4	1	1	0	5	10	19	5	5	53	2	10	10	4	6	5	6	13	2	5	6	8	9	8	2	2	25	24	23	31	28	16	29	13	47	55	76	64	10	14
H9年度	0	1	3	0	5	1	4	8	15	4	4	46	5	3	9	3	3	6	8	18	3	8	6	26	16	9	10	3	17	27	25	27	46	20	28	13	47	48	58	42	18	17

〈昨年一部浪人生の合格者数を加えず発表いたしましたのでお詫びし訂正します。〉

お知らせ

平成十二年度 同窓パーティー

日時 平成十二年八月五日(土)

午後三時より

場所 津市センターパレスホール

津都ホテル

担当学年幹事 昭和42年卒(代表 野田 洋一)

昭和54年卒(代表 小寺 徹也)

各地で同窓会開催

名古屋同窓会

九月四日(土)名古屋東急ホテルにて、平成十一年度津高名古屋同窓会が開催されました。

今回は、幹事の方々の「尽力により、百三十二名という名古屋同窓会始まって以来の多数の出席に加え、本日より富島副会長、松村津高校長、鈴木教諭をお迎えして盛大に行われました。

総会前には、先輩であり、気象解説家の島川三氏による「講演



九州同窓会

第十回津高九州同窓会を六月十三日(日)福岡国際ホテルで開催することができました。

平成二年五月の第一回総会以来、津高には本部より例年遠路から出席いただきました。この度、計

アッ！あの人も

井ノ口 貢(昭和53年卒)

昨年の幹事を担当し、なんとが無事同窓会を終えることができたことを、先生、事務局の皆様へ、諸先輩方、そして同輩諸兄にお礼

申し上げます。特に昭和41年卒幹事の先輩にはいろいろなご指導、ご協力いただき感謝しております。さて、私は生花店経営中であり、

日頃から皆さんのお客様や地域の方々のお力を得ております。なかには自分のほつから「私は津高の卒業生で、あなたの先輩です」

出逢い・ふたたび……

野田 洋一(昭和42年卒)

平成十二年度同窓パーティーは昭和四十二年・五十四年卒業生が担当し、平成十二年八月五日(土)に「津市センターパレスホール・津都ホテル」で開催致しました。

「出逢い・ふたたび……」のテーマのもと、お越しをいただいた皆様に十分楽しんでいただけたらと思います。いろいろな企画も検討中です。

パーティーでは、ジャンルの異なる音楽も十分楽しんでいただき、旧友との語らいの場にしてい

たいです。本年は記念すべき百二十周年を迎えます。

生科学賞・文部大臣奨励賞「カーリング競技におけるストーンの運動解析」について、資料に基づきVTRも交えて解り易く、論文の内容と受賞の喜びをお話していただきました。

「モノづくりが出来る人へ」をその教育の信念で、生徒の教育に携わって居られるお気持ちが出席者全員によく伝わった素晴らしい講演でした。



井田 佑(昭和28年卒)

大阪同窓会

第三十三回津高大阪同窓会が十一月十四日(日)、三井アーバンホテルにて開催され、百三十九名の来賓、同窓生の出席を賜りました。来賓として本部より島田・山田両副会長、津高から中条教頭・赤塚教諭、恩師の三ツ村先生、飯田先生のご臨席を頂きました。

恩師の三ツ村先生には「津高・津市と私」と題した講演をお願いし、先生の「碑の世界への道」を通して、津の歴史、自然、人情が語られていく内、先生の熱い想いが参加者に伝わり、いつしか会場は、昔の教室に逆戻りしたよう



津高九州同窓会総会

東京同窓会

津高東京同窓会は、すでに「案内」にありませうとあり、次回より、春の開催いたします。

次回は二〇〇〇年五月二十七日(土)正午より、霞が関ビル「東海大学校友会館」にて開催します。

一九九九年は、総会開催がございましたので、久しぶりの「参集を心より期待しております。今春、上京の学生諸君など、ご案内が届かない会員の方がござい

ます。ご出席の方は事務局までご連絡願います。

また、津高東京同窓会のホームページを開設しました。

アドレスは、
http://www.246.ne.jp/~tsukohky/whp/

事務局連絡先
〒103-1827 八
東京都中央区日本橋一丁目一七六
岡三証券株式会社内

京都支部

第三十三回総会が、折しも京都祭りが行われている快晴の十月三十一日(日)に、一昨年と同様ホテルサンフラワー京都の寿の間で開催されました。

岩田会長の挨拶に続き、岡村同窓会本部会長の同窓会の役割につ

津中一八会浜名湖館山寺大会

駒越喬員(昭和18卒)

隔年全国各地で持ち廻りで開催しているが、本年は中京地区の担当で、五月十二、十三両日、浜名湖畔、館山寺温泉ホテル九重で行われた。恩師米本宏先生を迎え、級友三十六名の楽しい集いとなった。翌日は二班に分かれて浜名湖周辺の歴史観光と、遠州路の春を満喫、次回二〇〇一年には東京での再会を約して帰路について。

還暦同期会のお知らせ

昭和34年卒幹事 中根 章
本年私も昭和三十四年の卒業生の多くが還暦を迎えます。そこで今秋一泊の還暦祝いの同期会を開催すべく計画中です。

「親子でござん〜ノベル賞発刊

受賞者九十九人の成長物語。
発行……平成十一年十月一日
著者……石田寅夫(昭和32年卒)
天才を育てる「ノベル賞」受賞者の家庭に学ぶ石田寅夫著

事務局より

封筒のおもてに「お願い終身会費払込」と印刷されている方は、同封の払込用紙で二万円ご送金下さいませませうとお願いいたします。尚、すでに納入いただいた方に、この文字が印刷された封筒が届きましたときは、まことにお手数ですが、事務局までご連絡下さい。

同窓会事務局を名乗って

色々な問い合わせをする悪質な業者がありますが、事務局からは、津高の住所が明記された返信はがきで返信いたしますので、それ以外のものは充分ご注意ください。

今回は紙面の都合上

同窓会本部会長の同窓会の役割につ

掲載を割愛いたしました。ご了承下さい。

事務局より

事務局より

事務局より

